

## つくばね vol.24no.1

1998. 8.12

本学 筑大図

## ● 目次

- 1 イギリスとフランスの電子図書館
- 3 本学教官寄贈著書紹介
- 5 平成9年度附属図書館統計
- 7 図書館便利マップ
- 10 Ask Us としょかんミニガイド
- 12 附属図書館ボランティア記念式・講演会開催
- 13 とびつくす
- 14 掲示板

## イギリスとフランスの電子図書館

平岡 博, 岩見 真二, 内藤 英雄, 西原 清一

1998年2月22日から3月1日までの8日間、私たち4人は、筑波大学国際交流計画事業の一環で、電子図書館の現況を調査することを目的として、イギリスとフランスに派遣していただきました。

22日に成田からロンドンまで飛び、翌23日はロンドンの西150キロにあるバースに向かいました。

## UKOLN

バース大学図書館の5階にあるUKOLN (The UK Office for Library and Information Networking) の事務室で、Rachel HeeryさんにROADSプロジェクトについて、Isobel StarkさんにAriadneについてお話を伺いました。

(<http://www.ukoln.ac.uk/>)

ROADSは、国家的プロジェクトであるeLib (Electronic Libraries Programme) のプロジェクトのひとつで、ネットワーク上の情報資源に効率よくアクセスするための情報資源の記述 (メタデータ) の作成、収集、配布などの方法についての調査とソフトウェア開発を行っています。

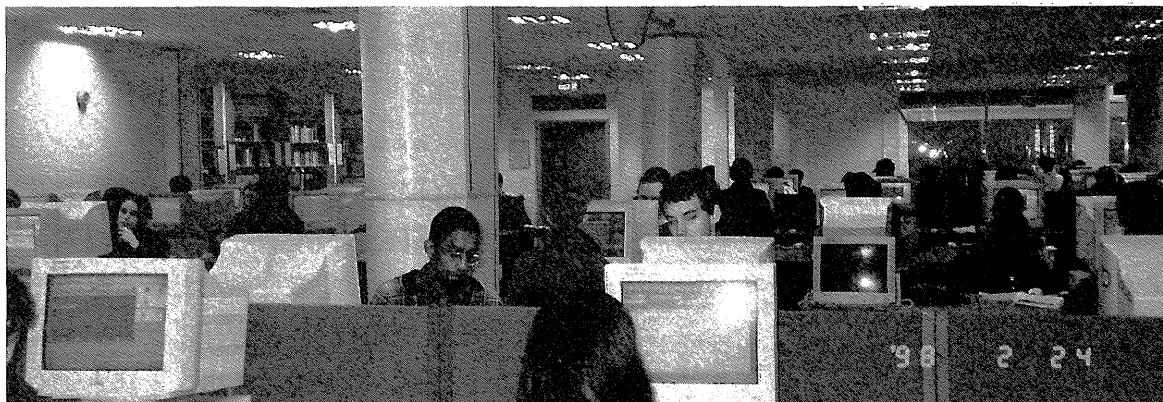
(<http://www.ilrt.bris.ac.uk/roads/>)

AriadneはeLibの進捗状況を報告することを主たる目的とした電子ジャーナルです。

(<http://www.ariadne.ac.uk/>)

## BIDS

バース大学のコンピュータ・センターでは



バース大学図書館・学習センター：350台のパソコンが配置されている。

Terry MorrowさんからBIDSの活動について教えてもらいました。

BIDSは、イギリス国内にあるデータセンターのひとつで、SCIやEMBASEなどの二次情報データベースを大学や研究機関に提供しています。

また、1996年からはJournalsOnlineという、いくつかの出版社の学術雑誌の原文提供を始め、さらに1997年からは、二次情報データベースと雑誌論文とをハイパーリンクで結んだサービスも始めました。

(<http://www.bids.ac.uk/>)

#### ロンドン大学図書館

24日はロンドン大学 (University College London) を訪問し、中央図書館では副館長のJanet Cropperさんにexam papers systemを見せてもらいました。学生のための試験問題が図書館に置いてあるのですが、貸出要求が高いので、それら試験の全文をデータベース化してネットワーク経由で閲覧できるようにしたものです。

自然科学図書館ではSarah McGivernさんからeLibプロジェクトのひとつであるLAMDAの話を知りました。LAMDAは相互貸借システムで、総合目録の検索、文献の依頼、ドキュメント・デリバリがリンクされています。

(<http://www.ucl.ac.uk/Library/>)

(<http://www.ucl.ac.uk/Library/lamda/>)

#### ケンブリッジ大学図書館

25日はケンブリッジに行き、情報技術課長のPatricia Killiardさんに、マニュスクリプトや古



ケンブリッジ大学のキャンパスを流れる  
ケム川にかかる数学橋

書をデジタル・カメラで撮影入力している現場などをご案内いただきました。

(<http://www.lib.cam.ac.uk/>)

イギリスの電子図書館プロジェクトは、大学の研究者も巻き込んでいて、研究開発的な色彩を帯びていますが、その基底には学生数の増大とか資料価格の高騰とかいったきわめて現実的な要請が横たわっているのが特徴です。

BIDSのJournalsOnlineは雑誌の価格高騰への対応策ですし、LAMDAはBLDSCより安価で迅速な文献入手への要望に基づいています。



フランス国立図書館：本を開いて立てた形のビルディングが4つ立つ

#### フランス国立図書館 (トルビアック)

26日にロンドンからパリに移動し、翌27日、トルビアック通りに面した新しいフランス国立図書館で、システム開発・ネットワーク局のJean-Didier WagneurさんからGallicaという電子図書館システムの説明を受けました。

Gallicaは、電子化したフランス国立図書館の資料をネットワーク環境で検索して、表示することができるシステムです。Gallicaの課題として、Wagneurさんは、ユーザ・インターフェースの評価と改善ということを特に強調していました。

(<http://www.bnf.fr/>)

(<http://gallica.bnf.fr/>)

今回の調査の実現のためには筑波大学の関係の方々の格別のご配慮をいただきました。特に、研究協力部、図書館部の皆様にはたいへんお世話になりました。心からお礼申し上げます。

## 筑波大学附属図書館報『つくばね』読者アンケート

筑波大学附属図書館報『つくばね』編集委員会

該当するものに○をつけてください。

## 1. あなたのご身分

学群学生（1, 2, 3, 4, 5, 6）      大学院生  
教職員      その他（                      ）

2. いままでに「つくばね」を読んだことがありますか？

毎号読んでいる      時々読む      はじめて

### 3. この号で興味を持った記事

- ( ) イギリスとフランスの電子図書館
- ( ) 本学教官寄贈著書紹介
- ( ) 平成9年度附属図書館統計
- ( ) 図書館便利マップ
- ( ) Ask Us としょかんミニガイド：CA on CD の使い方
- ( ) 附属図書館ボランティア記念式・講演会開催
- ( ) とびっくす
- ( ) 掲示板
- ( ) 編集だより

4. 「つくばね」に載せてほしい記事

- ( ) 附属図書館利用案内  
( ) 蔵書紹介  
( ) 資料の探し方  
その他 ( )

ご協力、ありがとうございました。

アンケート用紙は、各図書館のメインカウンターの回収箱に入れてください。

## 参考文献

- 1) 尾城孝一 “英国の大学図書館における電子的  
情報サービスの進展” 「大学図書館研究」  
52, 1997.12, pp.36-51  
(ひらおか・ひろし  
図書館情報大学図書館情報課情報資料係長)
- 2) 平岡博 “英国Bath大学を拠点とした電子図書  
館プロジェクト” 「大学図書館研究」 53,  
1998 掲載予定  
(いわみ・しんじ 研究協力部国際交流課)  
(ないとう・ひでお 情報管理課長)  
(にしはら・せいいち 電子・情報工学系教授)